

厚生労働科学研究費補助金(がん対策推進総合研究事業)  
分担研究報告書

3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」  
に関する教育と正しい情報伝達に関する研究に関する研究

研究分担者 吉原 弘祐  
新潟大学大学院 医歯学総合研究科・助教

研究要旨 「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」合同ワーキンググループを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。インターネット「がんゲノムネット（仮称）」と書籍「よくわかるがんゲノム医療（仮題）」制作を進めている

#### A. 研究目的

「日本癌学会」、「日本臨床腫瘍学会」、「日本癌治療学会」が設立した「3学会合同ゲノム医療推進タスクフォース」内の活動目標の1つである、「社会に対する正しいがんゲノム医療の提供」の実現に向け、「がんゲノムネット・ワーキンググループ（WG）」が組織された。この3学会合同WGを基盤とし、患者、患者家族、一般市民を対象に、現状のがんゲノム医療の全体像をまとめアップデートを随時行いながら、ゲノム関連情報の提供を行うことを目的とする。

#### B. 研究方法

##### 1. 会議

がんゲノムネット・ワーキンググループ（田村，土原，高橋，古川，川上，佐治，矢野，植竹，林田，吉原，清水）を開催する。インターネット公開および書籍出版により、正しいがんゲノム医療情報を提供する。

##### 2. 関連学会への参加

適切な執筆者の選定や学会でのがんゲノム医療情報の配信に関して情報収集を行う。

（倫理面への配慮）

偏った情報あるいは誤った情報を配信することがないように、ワーキンググループ内で情報源の把握を行う

#### C. 研究結果

4月に通信での打ち合わせ後、7月に開催された3学会合同WGに参加した。現状のがんゲノム医療の情報配信に関する問題点を議論し、情報ツールとしてインターネット「がんゲノムネット（仮称）」と書籍「よくわかるがんゲノム医療（仮題）」を制作することを決定した。7月末、11月、1月末と通信での打ち合わせにより、上記の内容、項目、分担執筆者の選定を決定し、分担執筆者の内諾を得た。

#### D. 考察

研究計画書の年度予定通りに順調に進んでいる。

がんゲノム医療情報は日々更新されていることから、適宜計画の見直しを行い、社会のニーズに合うものを発信できるようにしていく必要がある。

#### E. 結論

3学会合同WGでがんゲノム医療情報発信に向けた基盤を築くことが可能であった。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

Tamura R, Nakaoka H, Yoshihara K, Mori Y, Yachida N, Nishikawa N, Motoyama T, Okuda S, Inoue I, Enomoto T. Novel MXD4-NUTM1 fusion transcript identified in primary ovarian undifferentiated small round cell sarcoma. *Genes Chromosomes Cancer*. 2018 Nov;57(11):557-563.

Suda K, Nakaoka H, Hata C, Yahata N, Isobe M, Kameyama H, Wakai T, Motoyama T, Inoue I, Yoshihara K, Enomoto T. Concurrent isolated retroperitoneal HGSC and STIC defined by somatic mutation analysis: a case report. *Diagn Pathol*. 2019 Feb 11;14(1):17

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし